

監事候補者一覧

2021 年度選挙

定数 2 名

(届出順、敬称略)

氏名	所属・職名	推薦代議員氏名／所属・職名
1	横山 徹爾 国立保健医療科学院 生涯健康研究部・部長	井上 真奈美／国立がん研究センター 社会と健康研究センター 予防研究部・部長
		澤田 典絵／国立がん研究センター社会と健康研究センター コホート研究部・室長
		山地 太樹／国立がん研究センター 社会と健康研究センター 疫学研究部・室長
2	和田 恵子 岐阜大学大学院 医学系研究科 疫学・予防医学・准教授	松尾 恵太郎／愛知県がんセンター がん予防研究分野 ・分野長
		伊藤 秀美／愛知県がんセンター がん情報・対策研究分野 ・分野長
		尾瀬 功／愛知県がんセンター がん予防研究分野 ・主任研究員
3	小笹 晃太郎 公益財団法人放射線影響研究所・疫学部長	西 信雄／医薬基盤・健康・栄養研究所 国際栄養情報センター・センター長
		堤 明純／北里大学 医学部・教授
		片野田 耕太／国立がん研究センター がん対策情報センター がん統計・総合解析研究部・部長

経歴 ・ 所信表明

1	横山 徹爾	国立保健医療科学院 生涯健康研究部・部長
		【経歴】 1991年3月 東京医科歯科大学医学部医学科卒業 1996年3月 東京医科歯科大学医学部医学研究科博士課程単位取得退学 1996年4月 東京医科歯科大学難治疾患研究所社会医学研究部門（疫学）助手 2002年4月 国立保健医療科学院 技術評価部 主任研究官 2006年4月 国立保健医療科学院 技術評価部 研究動向分析室長 2008年11月 国立保健医療科学院 人材育成部 部長 2011年4月 国立保健医療科学院 生涯健康研究部 部長 （現在に至る） 1993年3月～ 日本疫学会会員（1998年1月～1999年6月：事務局長、 2016年～現在：監事）
		【所信表明または推薦理由】 横山徹爾先生は、現在、国立保健医療科学院生涯健康研究部の部長として、疫学研究に従事されています。日本疫学会には、学会創始初期から加入され、1998～1999年には、事務局長を経験されるなど、これまで本学会に対して、重要な貢献をされてこられました。 横山先生は、学会運営を理解しつつ、平等で客観的な立場から業務内容について監査することができる資質がおありです。実際に、2016年から日本疫学会が法人化した後の最初の監事としてその職責を全うされ、現在まで引き続き監事を務めていらっしゃいます。今回、監事業務のさらなる定着のため、これまでのご経験を活かして監事をご継続いただきたく推薦いたします。

2	和田 恵子	岐阜大学大学院 医学系研究科 疫学・予防医学・准教授
	【経歴】 学歴 1999年3月 名古屋大学医学部 学士（医学） 2007年3月 名古屋大学大学院医学系研究科 公衆衛生学、博士（医学） 職歴 2008年10月～ 岐阜大学大学院医学研究科 疫学・予防医学 助教 2013年5月～ 岐阜大学大学院医学研究科 疫学・予防医学 准教授 免許・資格等 1999年4月 医師免許 2020年4月～ 社会医学系専門医・指導医 2020年4月～ 上級疫学専門家 日本疫学会への貢献活動 2003年10月 入会 2015年12月～ 代議員 2019年6月～ Journal of Epidemiology編集委員	
	【所信表明または推薦理由】 所信表明 私、和田恵子は、名古屋大学大学院公衆衛生学にて疫学に出会い、それ以降、日本疫学会の会員として研究を続けています。多くの疫学研究に参画し、その結果を学術集会や論文にて発表してきました。岐阜大学大学院疫学・予防医学では、疫学研究を通して学生や若手研究者の育成にも携わってきました。研究コンソーシアムでは他の研究者と協働し、疫学の研究資源を利活用して更なる成果を創造する経験もしてきました。2019年からは、Journal of Epidemiology編集委員を務めています。 これまで日本疫学会の学会運営に関与する機会はありませんでしたが、私に学術的な視点と幅広い分野の研究者との交流をもたらした日本疫学会の発展に微力ながら貢献したいと思い、監事に立候補いたします。理事の職務の執行を監査する（一般社団法人日本疫学会定款）という監事の職務は私にとって重責ではございますが、学会活動を理解しながら常に客観的な判断ができるよう心掛けていく所存です。 至らぬ点ばかりの若輩者ではありますが、私に監事として学会の運営に貢献する機会をいただけたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。	

	推薦理由 和田恵子先生は、現在、岐阜大学大学院医学系研究科 疫学・予防医学分野の准教授を努め、疫学の教育・研究に従事しています。現在は特に小児の健康に関する疫学研究を展開し、大学院生の論文指導などにも熱心で、疫学者の育成に非常に関心があると聞きます。研究熱心で論文発表も多数に渡り、日本疫学会総会では例年、研究発表に参加しています。トラベルアワードでIEAの学術集会にも参加しました。また、雑誌 J Epidemiolの編集委員として活動しており、2019年には日本疫学会の優秀査読者賞を受賞しています。このように若手ではありますが、既に本学会に対して貢献に努め、今後もそれが期待されるものと思われます。 かつて愛知県の保健行政機関に勤めた経験を持ち、現在は岐阜県や岐阜市の保健行政に関する各種委員会委員を務めるなど、組織運営のあり方を熟知していると思います。実際に、学校関係者、市の行政と連携した研究組織を潤滑に運営しているとも聞きます。実務能力に長け、優れた調整力を有し、学会運営を十分に理解しサポート出来ると思われます。また、東海公衆衛生学会の監事を努めた経験もあることから、監査として学会活動の業務内容を的確かつ公正に判断が出来ると確信します。正義感溢れ几帳面な性格で、その人品骨柄からも監事に相応しいと考えます。 現在日本疫学会の監事は男性のみであり、女性である和田恵子先生が加わる事で、日本疫学会が掲げるダイバーシティ推進にも大きく関与することが出来ると考えます。 よって、ここに和田恵子先生を監事として推薦いたします。
--	--

経歴 ・ 所信表明

3	小笹 晃太郎	公益財団法人放射線影響研究所・疫学部長 【経歴】 経歴（学歴・職歴） 1981(S56)年 京都府立医科大学医学部医学科卒業、医師免許取得 1981(S56)～1983(S58)年 京都第二赤十字病院内科研修医 1983(S58)～1988(S63)年 京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程(社会医学系専攻)、単位取得退学 1989(H元)年 医学博士取得 1988(S63)年～1999(H11)年 京都府立医科大学公衆衛生学教室助手・講師 1989(H元)～1991(H3)年 京都府園部保健所長（京都府立医科大学教員併任） 1999(H11)年～2008(H20)年 京都府立医科大学附属脳・血管系老化研究センター社会医学・人文科学部門助教授・准教授（職名変更） 2003(H15)年～2008年 京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学助教授（大学院重点化組織改編）・准教授（職名変更） 2008(H20)年～現在 公益財団法人放射線影響研究所疫学部長 疫学会会員・役員歴 会員：1991(H3)年～現在、評議員/代議員：2000(H12)年～2018(H30)年、理事：2016(H28)～2018(H30)年
---	--------	---

【所信表明または推薦理由】

被推薦者の所信表明

私は、前記の代議員の方々のご推薦をいただき、日本疫学会創設時以来の会員として、また、評議員・代議員・理事の経験者として、厳正かつ公平に監事の職務をつとめる所存です。

令和3年7月6日 小笹晃太郎